

株式会社ジェイコムイースト かながわセントラル局

2016年度 放送番組審議会 議事録

2016年度の放送番組審議会は、2017年3月10日(金)にかながわセントラル局3階会議室で開催された。

<放送番組審議会委員> (五十音順)

—ご出席—

網代 宗四郎 様	菊池 寛 様	栗原 茂明 様
坂本 文彦 様	林 俊明 様	星野 俊江 様

事業者側から局の現況報告、及びJ:COMチャンネル(11ch)とJ:COMテレビ(10ch)について報告があった。

【質疑応答・意見交換】(林会長による進行)

◆番組の視聴率について

委員 他のテレビ局は視聴率を出しているが、J:COMでは視聴率はちゃんと出しているのか？

事業者 残念ながらJ:COMでは視聴率をとっていない。効果測定をするのは難しいところである。広告の反響などもあるが、視聴率という数字では手前どもはとっていない。

委員 視聴率が出ない以上全般にかかってくることだが、どの様にして番組を告知して、視聴者にどの様な内容の番組をやっているかを知ってもらうのが大事。また、J:COMが地域番組を放送している事をどんどんオープンにし発信していくのは大事になってくると思う。

例えば、扇町のイベントでは、RICOHと一緒にITコンシェルジュを実施している。これは、エリアマネジメントに入っている会員とRICOHの従業員の方、ゼネコンと協議し、先行して建っているマンションに導入しているシステムで、扇町のイベント、市制などの情報を提供している。そのアクセス数を解析したもののなかで、扇町の中にある飲食店でクーポン券をつけたお店紹介をしているが、数が少ないので途中で飽きてしまう傾向があった。どこが一番アクセスがあるかというと、地域のイベント情報は意外と人が集まる傾向にあった。コミュニティの中で何かないかと感じている人が多いと考えられる。アクセス数がそこにあるのだったら連携して、例えば扇町の防災

フェスタがある旨の告知と一緒に、デイリーニュースの放送時間と扇町で取材する、または取材したものを放映する内容を連携放送することにより関心度が高まり、知らなかった方も番組を認知し見る癖がつくのではないか。

他にも色々な媒体をどんどん使い発信していかなくてはならないと思う。地域にはその様な所は沢山あるので J:COM で模索して接点を持ってもらいたいと思う。私も番組を認知したのでお知らせと一緒にやっていきたいと思う。

事業者 おっしゃるとおりコミチャンは視聴習慣がつかないと見てもらえない。デイリーニュースに関して、午後 6 時の生放送とその日に 2 回再放送がある、その時に見逃してしまうと知らないままになってしまう。私どもでは番組内の告知、取材先のチラシ活動はしているが、それだけでは足りないと感じている。最近では SNS 等を活用する取り組みをしている。広まれば、地元の方たちとコラボし相乗効果も生まれると思うのでぜひご協力をお願いしたい。

事業者 現在の放送予定は、ホームページとツイッターで上げている。情報は随時更新している。

委員 ホームページやツイッターは J:COM に興味のある人が見に行くので、それ以外で市役所の待合室の様な所でダイジェストでも良いので見てもらうのが良いのではないか。

事業者 横浜では上大岡の駅ビル京急百貨店の協力もあり、店内 5 箇所ぐらいにモニターを設置して 1 週間をまとめたデイリーニュースをダイジェスト版にし、ループで放送するサービスは行っている。

◆デイリーニュースについて

委員 各地域の催しを取り上げていただいて素晴らしい内容かと思う。瀬谷区の瀬谷フェスティバルも取り上げていただき感謝している。折角番組制作し放送しているものを皆さんに見ていただきたいので、取材に来た際には、掲示物またはチラシを用意してイベントの様子はいつどの番組で放送します、など PR すれば来場者の口コミで広まり話題になっていくと思うので PR 活動は大事だと思う。

また、地域の話も大事だが、最近振り込め詐欺などの被害も非常に多く発生しているので、デイリーニュースの途中で啓発情報を出して注意喚起をお願いしたい。

◆地域情報の提供について

委員 地域ニュースの情報提供の多くは行政から発信が多いと思うが、地域活動の実態としては女性の活動が大きい。女性はネットワークが非常に強いので、出来るか分から

ないが、各市に女性特派員のような情報を発信してくれる方、また女性ネットワークで仲間を集めて、J:COM の PR や女性視点の地域活動の取材などを行ってほしいと思う。また、そのような人たちに集ってもらい番組の意見を聞くなどして、女性の力を借りるということはプラスになると思う。

委員 女性としてまさにそう思い、そういった提案をしようと思っていた。

シリウスが開館してまもなく4ヶ月経ち、今月の18日あたりで100万人の来館者を迎える予定。開館してみて女性の来館者が圧倒的に多い、メインが図書館なので本を借りに来る方と限定的に考えていたが、シリウスに遊びにいこう、勉強しに行こう、何かを学ぼうという方が大勢見えている。学生たち、20代30代のベビーカーを引いた若いお母さん方、定年退職された男性たちなど多くの方が来場されている。こういった拠点が出来ると文化に対する思いがある方たちがどんどん集まって来るんだと感じている。その中でも女性の方はチョットした隙間の時間を見つけて何かをしたいと、女性特有の感覚やアンテナがあると思うので、先ほどお話のあったように女性特派員のような制度を実現させてほしい。地域にこのような方はたくさんいると思う。

J:COM 番組制作の費用はどのくらいなのか、それによってボランティアの方を使うのもあるのかと感じている。

事業者 番組制作に使える費用は限られている。ボランティアの力は凄いと感じている。女性に限ったことではなく特派員制度は局によってある局とない局がある。

少ないスタッフで広範囲のエリアをカバーしているので、災害があった時は全ての現場にスタッフが向かうことは無理。そのような時に各地区の特派員が居れば、スマホなどで写真を撮って送り特派員情報という形で番組の中で活用することができる。

事業者 今まで女性団体との協力体制はないが、話に上がっているような構成で協議できないか大学生と話し合いを持つ機会を設けている。大学生の中には映像を勉強している方もいるので、定期的に番組に提供できるか特派員に協力いただけるのかの話し合いをしていく予定。

◆地域スポーツの J:COM 冠について

委員 私はアマチュアスポーツを担当している。子供たちのスポーツ大会は盛んになっていると感じている。この前ビデオで「ジェイコム杯」「ジェイコム旗」を見たが、座間にはそういったものがないので寂しいと感じた。

座間の少年野球は相模川のグラウンドで12~13チームある。J:COM 旗などあればもっと盛んになると思うのでぜひお願いしたい。

大風大会は、相模原市と共に5月4日~5日一緒になって開催する。どっちが日本一かは分からないが競い合っている。次回は秦野市のミニ風も参加することになった

た。このイベントは子供の参加、他の市町村からの参加を心掛けている。

市民マラソンも相模川のグラウンドを使い、今までのコースを変更し環境も整えて実施する予定。その他として、座間の有名な桜並木は、行政とプロジェクトを組んでワークショップやアンケートを行い、地域で守り維持管理していくためNPO法人を作り、年間3700名のボランティアを集め4年がかりで進めている。ボランティアの方には地域振興券を渡し地域還元できるよう上手く回している。

事業者 桜並木の活動についてはイベントとしてではなく、維持管理活動を別の切口でデイリーニュースの中で紹介していくことを考えていきたい。

ジェイコム®の冠については前向きに検討していきたい。

◆タなびについて

委員 私は以前「タなび」に出演させていただいた。各地域の地元を自慢したい方が集まっている番組で、物凄いパワーで、自分もおしゃべりな方ですが、口を挟めない位地元自慢をしておりとっても楽しい番組。これからもずっと続けて、もっと多くの方たちに見ていただき出演してもらいたいと思う。

先ほどの話にもあったJ:COMの番組内容の告知方法として、毎月送っている番組表にこの地域限定でやっている番組表を1枚挟み込んでもらうと見易いのではないかなと思う。

大和観光協会では7年間映画祭を開催していて大和を魅力的に見せていこうと、一般の方から作品を募集している。5分間のショートムービーコンテストには大勢の方の応募があり、地元の人も知らなかった事も映像として作ってある。神奈川県もこのイベントに注目しており、各地で行っている映画祭やコンテストをまとめて、今回初めて県のショートムービーグラウンドコンテストを開催し、大和からも4点ほど出展した。コンテストに出展した作品をJ:COMの空いている放送時間で放送していただければ、制作者側も楽しいし、発表の場も与えられ喜ぶと思うし、神奈川の魅力を色々な所で見ていただけるのではないかな。

事業者 小田原市でも映画祭がありショートムービーコンテストも行われている。その中で優秀賞などに選ばれた作品は許可をもらい小田原局で放送した。小田原以外でも放送の許可が得られれば、是非放送していければと思う。J:COMの地域情報コンテンツとしても非常に面白いものと思うので、横展開していきたいと思う。

ガイド誌に地域限定の番組表を挟み込む件ですが、大勢の皆さんからそのようなご意見をもらっている。中々お金もかかる話になっているので実行できていないのが現実。

現在、イベントに行った際に活用できる名刺サイズの放送時間とホームページ、SNSのアドレスが記載されているものを考えている。但しこれも会場に来た方にしかお渡しできないので、もっと広めていくことは今後の課題となっている。

ご意見ありがとうございます。

委員 報告の中で高校野球の生放送実施とあるが、J:COMは民放と違った、ほかのスポーツや文化系の活動など、中々メディアが取り上げないモノを差別化し放送を考え、取り組んで欲しい。

日本社会も含めて考えが変わってきているので、個人的にはメジャーな高校野球の放送ではなく、他がやっていない分野に振り切った放送内容でもよいのではないか。

委員 「タナビ」は、とても地域密着していると感じ面白いと思う。紹介するお店の情報などは、人気ブロガーなどの発信力のある方の力を借り、タイアップして感想を載せてもらうなどしていくことにより、広がりが出てくるのではないか。

委員 見ていただくためにも、また、見てよかったなあと感じていただくためにも、例えばこれからの時期、花のきれいな場所をシリーズで紹介していくのはどうか。また、それを維持管理していく方を紹介してもらえると、見た方は番組で紹介された所に行ってみようと思うのではないか。

先ほど話しに上がったJ:COMの冠については、我々である程度吟味し打診させていただき取り上げるか進められるよう考えたい。私のところでは、少年野球大会や少年サッカー大会など子供の頑張っている姿にポイントをおいて欲しいので、J:COMの後援や協賛に参加しJ:COMのPRのキッカケにして欲しい。最後に名刺大のPR資料の話があったが、私どもに預けていただければフルに活用していろんな機会で紹介していきたいと思う。

事業者 少人数で取材するため、取材先でチラシなどを配ることが中々出来ないのも、皆さんにご協力いただけることは非常にありがたい。

高校野球を推進する意見は多くあるが、逆の意見は初めてだったので少々驚いた。J:COMチャンネルの特番はスポーツだけではなく、神奈川では高校生のダンスを取り上げたストリートダンスの番組もやっている。スポーツでは新年度から高校ラグビーにも焦点を当てていこうと考えている。

「タナビ」で有名なブロガーを使ってみてはという意見は非常に面白いと感じた。こちらでもリサーチするが、もしご存知で良い方がいればご紹介をお願いしたい。

委員 かながわ市町村駅伝を視聴し、座間はいつも下位でこの放送を見た時に感じたことは、上位ばかり放送していて下位はほとんど放送されていない。順位すら分からない状態になっていた。下位の方にも光を当てて欲しい。

事業者 来年以降は移動車の中継を増やして下位映像も増やしていく話は出ているの

で宿題ということにさせてください。

委員 加入契約者の年代ではなく、見ている人の年代は、若い層なのか、中間層なのか、年配層なのか、男女の比率はどうか、などを知らないと言った番組作りには影響するのではないか。そういった人たちをターゲットに番組を作っているのか視聴率を上げるためにどうしているのか。

事業者 加入契約者は中高年の方が多い。コミチャンを見ている層についての詳細はどうかまで、中々そこまでは調べきれていない。今までは個別で局アンケートを実施していた。

デイリーニュースで言えば、ターゲットはファミリー層で広く見ていただけるように番組を構成している。

委員 誰が見ているのかわからない、何人見ているかわからない、誰に向けて番組を作っているのかも定かではないとなると、市民は J:COM を知っているが番組はほとんど知らないのは頷ける。

見てもらう必要があるのであればこれらを本気で考えていった方が良いと思う。

委員 東北の震災の後、車で現場を走っていた際、災害時に流す災害 FM を聞いていて、FM はどうしても耳だけの情報なので映像情報があればと感じた。

J:COM は避難所などに映像を提供する事、医療情報や行方不明情報など有効な情報が見られることは検討されているのか。

事業者 エリア局によっても取り組みは違うと思われるが、避難所にケーブルがすでに敷設されている所もある。熊本地震の際は、文字と映像で水道やガス、給水等の災害生活情報を加入者であるが放送していた。

災害時の体制は J:COM の各メディアセンターで整えている。

委員 どうやって見てもらうかの話で大勢の方に見てもらう事を考えると、病院の待合室や駅などの公共スペースなどの不特定多数の方が行き来する場所にテレビ設置をお願いすることと思う。地域の有効な情報を皆さんに届ける事によりいずれ J:COM に加入しようかという事にも繋がるのではないかと感じた。

事業者 J:COM チャンネルの視聴促進・視聴定着化をどうしていくかは重要なテーマになっている。見てもらう所で病院は案として出ている。市役所の待合室には J:COM の幹線が入っている行政もあるので、地域情報を流しておくことが出来ないか進めており、このような拠点をどんどん増やしていきたいと局としても考えている。

委員 情報提供の番組だけでなく、工芸や料理、フラダンスや太極拳、ヨガなどの趣味カルチャー番組があると主婦層は見たくなると思う。

委員 身近な情報が入ってくるようになれば外に出る機会が増えると思う。高齢者に対する身近な情報を的確に発信するのは必要であると思う。また、若い人が地元を愛するようになるよう J:COM の役割として今後進めて欲しいと思う。

今回は活発な意見も多くいただきましてありがとうございました。 以上をもちまして放送番組審議会を終わらせていただきます。

以上